

2. 栢本廃寺の概要

史跡栢本廃寺跡は早くから研究者の注目を集め、昭和10年に国の史跡に指定されました。その後ほ場整備計画に伴って、寺域や金堂・講堂・東塔・南塔の確認調査が行われ、栢本廃寺の詳細が判明したことから平成15年度に史跡の追加指定を受けました。

栢本廃寺は古代の法美郡の中心地から約14kmも離れた山間地に所在する7世紀末前後から10世紀初頭まで存続したと考えられる寺院跡です。

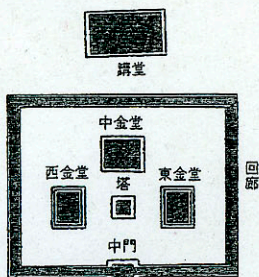
これまでの発掘調査によって、南塔・金堂・講堂が南北に並び金堂の東側に東塔を配する全国に類例を見ない特異な伽藍配置を持っていることがわかりました。

また、礎石をもつ建物なのに瓦がまったく出土していないことから、板葺・椀皮葺・茅葺などの非瓦葺の建物だったのではないかと想定されています。これは栢本の積雪量が多く、積雪の荷重に耐えるための工夫の結果だと考えられています。

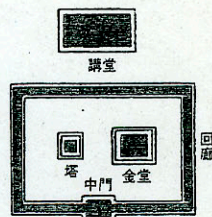
古代寺院の多くが有力豪族の氏寺として平野部に造営されていますが、栢本廃寺の場合は中心地から離れた山間地に位置しています。栢本廃寺がこの地に造営された背景としては『続日本紀』に記述されている因幡国山間地の銅生産を支配した伊福吉部氏との関連が想定されています。また栢本廃寺の北東には名瀑布「雨滝」が所在しており、修行の場ともなった寺院であったのではないかと考えられています。

このように栢本廃寺は独特な伽藍配置や山陰地方の気候に対処した工夫等の特異性だけでなく、古代における仏教の信仰、政治、経済を考える上で大変貴重な遺跡です。

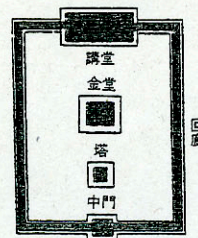
伽藍配置・・・寺院における塔・金堂・講堂などの建物の配置。代表的なものに、飛鳥寺式・法隆寺式・四天王寺式・薬師寺式・法起式などがあります。



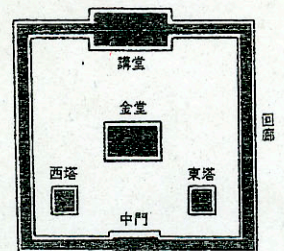
あすかてらしき
飛鳥寺式



ほりうてらしき
法隆寺式



してんのうてらしき
四天王寺式



やくしじらしき
薬師寺式